

【台湾視察への思い】 昨年11月、私費で台湾に視察へ行ってきました。台湾については、祖父の戦友が台湾人で戦後祖父が台湾人と交流していたことや、私がカナダへ留学していたときに台湾人の友人が大変よく接してくれたことなどから深く関心をもっていました。そこで留学から帰国後、日本の近代史を勉強すると共に、台湾についても感心をもって本を読みました。幾つかの本には大変親日的な台湾人が多いと書いてありましたが、私の性分で実際目で見てみないと納得できませんし、日本の安全保障上、地理的に重要な位置にある台湾の国民が、日本人に対してどのような感情を持っているのか、を知りたいと思い、視察に行ってきました。

また、ある本に、台湾には日本時代の教育の一端が残っているとも書いてあったので、それは吹田の教育行政にも逆輸入することができるのではないかと思います、学校視察なども行ってきました。

【学校訪問】 台湾南部の高雄市の四維小学校と郊外の南栄小学校を訪問してきました。



四維小学校 校長室で、多くの先生や高尾市の市議員、PTAの方々と懇談。校長先生のお話

- ・現在行っている総合過程は日本をモデルにしている。
- ・是非日本の学校の文化祭を見学したい。吹田の学校と交流事業を是非お願いしたい。

先生のお話から、日本の学校教育を高く評価していただいている様子うかがえた。



英語授業の視察

- ・当校では、インターネットを用いたEラーニングの整備が充実。
- ・台湾人が英語で英語を教える教授法
- ・生徒のモチベーションも高く、写真のように私と簡単な英会話なら物怖じせずに行える。



南栄中学校 校長先生や、戦時中日本に住んでいらった前校長の奥さんらに出迎えていただく。

最初に、ブラスバンドの演奏で歓迎。(右写真)



私の広報ビラを掲示してくださっていました。

校長先生のお話

- ・教育水準は地域格差がある(財政面も含めて)。日本は一定水準ですばらしい。台湾からみてとても憧れるところ。
- ・南栄中学ではいじめが少ない。問題がある子供は早い時点でわかるので、いじめる子の家を家庭訪問し、誰かがかまってくれているということを示してあげる。経済的に貧しい家の子供が多い。子供は誰かが関心を持ってやるとしっかりそれに答えようとする。そのような生徒には早いうちにケアを行うことが大切。「けじめ」をつけさせる。
- ・教師の体罰についてはもちろん禁止されている。しかし、げんこつは許されないが、立たせる・走らせることは問題ない。教師に合理的な権限をもたせないと教育は成り立たない。
- ・生徒には色々な奉仕活動をさせる。机の上の文字での教育だけでなく、直接体験を。

【そのほかの視察の一例】



(鳥山頭ダム) これだけのものを作るには相当な労力と費用がかかったはず。台湾の方もそれをしっかり評価してくださっているのが、日本人として嬉しかった。



(新竹サイエンスパーク) 台湾も日本と同じくものづくりを大切にしていることや、日本と貿易で深い関係を築いていることが良く分かりました。



台湾政府の外交部(外務省)の方々との懇談。日本との外交関係をすごく重要視してくださっていることが良く分かりました。

【感想】 今まで20カ国ほど外国を訪れたが、台湾ほど日本や日本人に対して好意を持っている国はないと感じました。台湾の方の日本から学ぼうという姿勢を感じ、一人の日本人として身の引きしめる思いがしました。

また、総督府でガイドをされているご老人が「戦後62年も経って、何故日本人は正しい歴史を教えないのか。」「総督府にきた人には教育勅語を配り、その大切さを伝えるようにしている。教育勅語には人間の正しい道が何かということが記載されている。実際に教育を受けた私が言うのだから間違いない。」とおっしゃっていたことが印象的です。会話の最後には「日本人に、日本の若者に頑張ってもらいたい」との言葉を下さいました。さらに、台湾の若者は平均的に日本の若者よりも国際意識が高いです。中国との関係で不安定な情勢下にあるからだとも思いますが、その点は見習いたいと思いました。

限られた紙面で、十分な説明ができないのが残念ですが、今後も台湾には関心をもって情勢を見ていくと共に、各方面から要請のあった民間レベルの交流などもお手伝いしていこうと思います。